



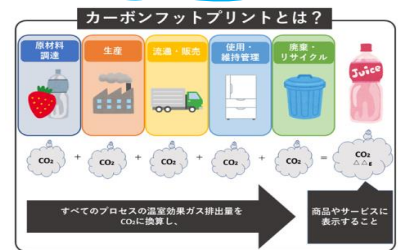
2024パリ五輪 CO2排出量の大幅削減!

7/26からパリオリンピックが開催されました。熱い戦いが繰り広げられ、夢中になった方も多いと思います。今回のオリンピックはCO2排出量を大幅削減することを目標に掲げています。その目標や取り組みを見てみましょう。

2012年のロンドン大会、2016年のリオデジャネイロ大会と比べてカーボンフットプリントを半分にする事を目標としています(無観客の2020年東京オリンピックは対象外)。この2大会はそれぞれ約350万トンの排出がありました。今回、排出量のカウントは開会式の7年前から始まり、会場建設から電子メールのやり取りに至るまで全ての作業が対象になるそうです。

※カーボンフットプリントとは？

炭素の足跡。商品の原材料調達から廃棄・リサイクルに至る過程を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO2換算し、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組み。「見える化」。



具体的な取り組み



①使い捨てプラスチックを使用しない

市内競技会場ではペットボトル飲料の持ち込みが不可です。代わりにマイボトルの持参が推奨されています。コカ・コーラは再利用可能なガラス瓶を利用し、給水器とソーダファウンテン(清涼飲料水を供給する機械)を200ヶ所以上設置して飲料の提供をおこなっています。



②競技施設の95%は既存・仮設の施設を利用

新たに建設されたのは3件の競技場と選手村のみ。あとの40近い競技場は既存施設と仮設の特設会場に対応しました。

③環境に負荷をかけない移動手段

観客輸送の一部には、走行時にCO2などの温室効果ガスを排出しないゼロエミッション車を採用しています。日本からはトヨタが電気自動車の提供に積極的に参加しています。



④低炭素で環境に配慮した選手村

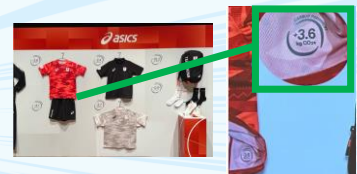
建物には天然素材を積極的に使用しています。外壁や床には木材を使っており屋上には太陽光パネルを設置しています。

ちなみに。。。



ユニフォームのテーマは「パフォーマンスとサステナビリティの両立」

TEAM JAPAN公式ユニフォームのジャケットとパンツは、温室効果ガス排出量を前大会と比較して約34%削減しました。すべての製品には各アイテムのカーボンフットプリントを印字することで、環境負荷の透明性を発信しています。



引用文献：<https://www.cfp-japan.jp/>、<https://www.asics.com/jp/ja-jp/>、<https://www.rd.ntt/se/media/article/0028.html>

★ 2024年度 CO2削減量 ★

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
再エネクレジット	¥2,613	¥2,897	¥2,618	¥1,825	¥3,763	¥4,284							¥18,000
再エネクレジット /t-co2	0.67	0.74	0.67	0.47	0.97	1.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.63
物流・移動時 /t-co2	0.04	5.53	0.12	5.01	3.64	0.05	4.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	18.60
CO2削減量 合計/t-co2	0.71	6.28	0.79	5.48	4.61	1.15	4.21	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	23.23
「杉の木」換算	51本	448本	56本	392本	329本	82本	301本	0本	0本	0本	0本	0本	1,659本